

## 大学院博士後期課程への進学で必要となるお金と主な経済支援制度

R4.2.18 現在

本資料の掲載内容は、令和4年1月7日に本学で開催した博士進学希望者に対するイベント「ドクターキャリアミーティング」で説明した内容です。

このほか、博士学生に対する経済支援制度に関する説明動画及び博士修了後の進路情報等が下記に掲載されていますので、博士後期課程への進学を検討している人は、ぜひご覧ください。

<https://moodle.cis.kit.ac.jp/course/view.php?id=55708#section-6> 《学内専用》

大学院博士後期課程修了までに最低限必要な学費（3年間分）は次のとおりです。


入学料	282,000 円	
授業料	1,607,400 円	535,800 円／年×3 年間
保険料	3,620 円	学生教育研究災害傷害保険及び付帯賠償責任保険
合計	1,893,020 円	

一般入試で入学する人は、所定の申請書類を提出すれば**授業料は3年間全額免除**<sup>注</sup>となります。また、本学博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学する場合、**入学料は全額免除**となります。

注：ただし、修士等の学位取得後1年以内（1浪以内）に入学する人のみ。

学費に加えて、食費や住居費等の生活費として平均**4,881,300 円**（1,627,100 円／年×3 年間、JASSO「平成30年度学生生活調査」より）が必要とされていますので、**家賃や生活費等を節約することで支出を抑制し進学に向けて計画的に貯蓄することや、奨学金や授業料減免制度等を活用し、経済負担を抑えることが重要**です。

2022年1月時点の主な経済支援制度は以下のとおりです。なお、これらの制度は随時変更されるので、定期的に各HPや学生情報ポータルを確認してください。

実施者	種別	概要	支援額等	詳細HP
大学	入学料減免	本学博士前期課程を修了し、引き続き本学博士後期課程に進学する学生に対する入学料免除	入学料を全額免除	申請手続不要
大学	授業料減免	一般入試による入学者に対する授業料免除（ただし、修士等の学位取得後1年以内（1浪以内）に入学する人のみ）	3年間の授業料を全額免除	申請手続は合格通知に同封して案内予定
大学	入学料減免・授業料減免（上記の適用外の学生対象）	経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業成績が優秀な学生に対する入学料・授業料免除	入学料・授業の全額又は一部を免除	

実施者	種別	制度名	支援額等	詳細HP
大学	フェロースhip (生活費+研究費)	①「京都産学共創「超階層」マテリアル人材育成フェロースhipプログラム」 ②「京都産学共創 異分野融合人材育成フェロースhipプログラム」	月額 15 万円の生活費と年間 60~70 万円の研究費を支給 [2021年度1年次採用実績] ①、②各6名	
大学	奨学金 (給付型)	京都工芸繊維大学基金奨学生	1,000,000 円 [2020 年度実績] 博士後期課程学生 4 名 (上記のほか、博士前期課程 2 年次生 1 名に対し、2020 年度中に 2021 年度奨学生として内定。(奨学金は博士進学後に支給))	
大学	奨学金 (給付型)	dCEP 奨学金 (令和 4 年度以降入学者に対し支給)	標準修業年限の間、 月額 5 万円の給付奨学金を支給	
大学	学内雇用	TA (ティーチング・アシスタント), RA (リサーチ・アシスタント), PT (ピア・チューター)	1,400 円/時間	TA,RA は指導教員へ
(独)日本学生支援機構	奨学金 (貸与型)	第一種奨学金 (無利子) 第二種奨学金 (有利子) ※併用可 ※第一種については返還免除制度あり	最大貸与額 第一種 122,000 円/月 第二種 150,000 円/月 [2020 年度第一種奨学金返還免除実績] 対象者 10 名, 全額免除 2 名, 半額免除 1 名	
地方公共団体及び民間育英団体	奨学金等	随時 HP で公表しています。		
(独)日本学術振興会	研究奨励金 + 研究費	特別研究員	200,000 円/月の研究奨励費及び年間 150 万円以内の研究費支給 [2021 年度実績] 支給対象者 9 名	

### 【リンク集】

- ・ 入学科・授業料減免制度 [https://www.kit.ac.jp/campus\\_index/life\\_fee/](https://www.kit.ac.jp/campus_index/life_fee/)
- ・ 京都工芸繊維大学フェロースhipプログラム [https://www.kit.ac.jp/fellowship\\_doctoralcourse/](https://www.kit.ac.jp/fellowship_doctoralcourse/)
- ・ 京都工芸繊維大学大学基金奨学生  
[https://www.kit.ac.jp/campus\\_index/life\\_fee/scholarship/kitfund\\_scholarship/](https://www.kit.ac.jp/campus_index/life_fee/scholarship/kitfund_scholarship/)
- ・ 地方公共団体及び民間育英団体の奨学金  
[https://www.kit.ac.jp/campus\\_index/life\\_fee/scholarship/minkanscholarship/](https://www.kit.ac.jp/campus_index/life_fee/scholarship/minkanscholarship/)
- ・ 日本学術振興会特別研究員 <https://www.jsps.go.jp/j-pd/>
- ・ 日本学生支援機構奨学金 <https://www.jasso.go.jp/>

# 博士学生に対する 経済支援制度について

【2022年度版】

## (1) 一般入試入学者授業料免除

【概要】 一般入試による入学者は3年間授業料全額免除

【支援額】 年間 **535,800円免除**

【採択可能性】 一般入試入学者は**全員**

※ただし、大学が指定する申請書類の提出が必要。

また、修士等の学位取得後1年以内（1浪以内）に入学することが必要。

## (2) 経済的困窮者に対する授業料免除（（1）の適用外の学生対象）

【概要】 経済的に困窮する学生に対する授業料免除。

原則として修業年限の間のみ申請可。

目安として、世帯年収600万円以内→全額免除

世帯年収1,000万円程度以内→3分の2免除

【支援額】 全額免除→年間535,800円、3分の2免除→年間357,200円

【採択可能性】 令和3年度においては、家計要件を満たす者は全員免除

（注：あくまで予算の範囲内での免除実施となるため、要件を満たしていても免除とならない場合もあります。）

### (3) 本学博士前期課程修了者に対する入学料免除

【概要】 本学博士前期課程修了後、引き続き博士後期課程に進学する者は入学料全額免除。

【支援額】 **282,000円免除**

【採択可能性】 条件を満たす者は**全員**

### (4) 日本学術振興会特別研究員制度

【概要】 日本学術振興会より、**月額20万円**の給料及び**年間150万円以内**の研究費支給。支援期間は1～3年間（採択時期により異なる）

【支援額】 給与（課税） …年間240万円

研究費 …年間70～110万円程度（過去5年の本学実績）

【採択可能性】 平均採用者数（2019～2021年度の本学実績）

DC1…1.7名 DC2…3.3名

## (5) フェローシッププログラム

【概要】 選考の上、大学から**月額15万円**の生活費及び**年間60～70万円**の研究費を**3年間**支給。（ただし秋入学者は2.5年間分）

募集対象は博士1年次。採用枠は毎年12名（予定）

【支援額（春入学者の場合）】

生活費（課税）…年間 **180万円**

研究費 …年間 **60～70万円**

【採択可能性】 採択者12名／申請者19名（令和3年度の1年次の採用実績）

※（4）との併給不可。また、国費外国人留学生は申請不可。

## (6) 京都工芸繊維大学基金奨学生（注：令和3年度現在の内容）

【概要】 博士1～2年次を対象に、選考の上、大学から**100万円**を支給

【支援額】 100万円。博士在学中1回きり。

【採択可能性】 採択者5名／申請者18名（令和2年度実績）

※（4）、（5）との併給不可。また、国費外国人留学生は申請不可。

## (7) dCEP奨学金

【概要】 dCEPを履修する博士に対し、**月額5万円**の給付奨学金を**3年間**支給

【支援額】 年間 **60万円**

【採択可能性】 コース履修申請者は全員履修認可  
(令和元年度～令和3年度の実績)

※ (4) との併給不可。また、国費外国人留学生は申請不可。

## (8) 日本学生支援機構貸与奨学金・第一種奨学金返還免除制度

【概要】 ①日本学生支援機構より、奨学金を貸与 (最大3年間)

②業績優秀の場合、第一種奨学金貸与額の全部又は半額を返還免除

【支援額】 第一種 (無利子) …年間 **960,000円～1,464,000円**

第二種 (有利子) …年間 **600,000円～1,800,000円**

【採択可能性】

①申請者は全員採用 (令和3年度実績)

②全額免除1名・半額免除2名／申請者3名 (令和2年度実績)

## (9) RA制度

【概要】 標準修業年限内の学生で、**RAを希望する者全員**に対し、  
**時給1,400円、年間250時間程度**（ただし週20時間以内）の  
給与を支給（教員の研究費（外部資金含む）による追加任用も可）

【支援額】 年間 **35万円程度**（課税）（年間250時間勤務の場合）

【採択可能性】 希望者全員

※（4）との併給不可。また、国費外国人留学生は申請不可。

## (10) 特任研究員制度

【概要】 大型外部資金を獲得した教員の研究室に所属する博士学生を  
フルタイムの特任研究員として雇用し、大学より給与を支給。

【支援額】 月額 **21万円**（課税）

【採択可能性】 前例なし



本学博士前期課程修了後、**引き続き、一般入試により**博士後期へ進学した場合の支援のモデルケース

モデルケース① 希望者全員が年間で受けられる支援額



年間支援額計

**350,000円**

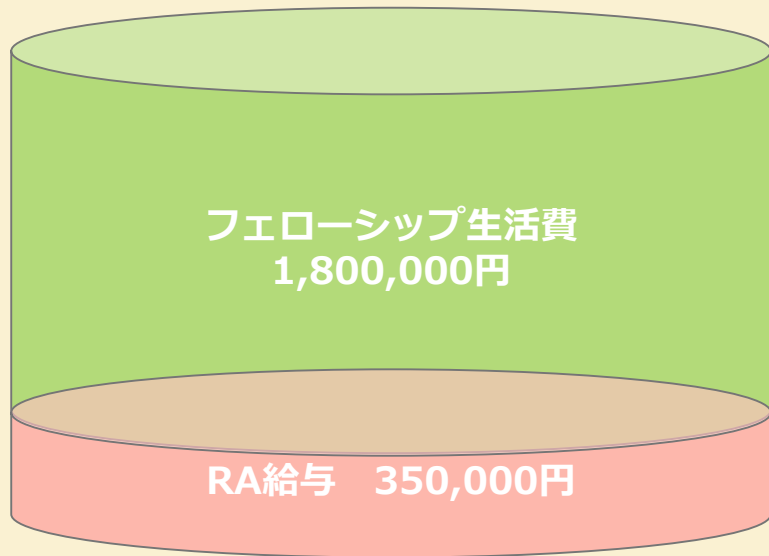
(+ 入学料282,000円免除)

(+ 授業料535,800円免除)

※RA給与は年間250時間の勤務を想定

本学博士前期課程修了後、**引き続き、一般入試により**博士後期へ進学した場合の支援のモデルケース

### モデルケース②-1 フェローシップ採用者が年間で受けられる支援額

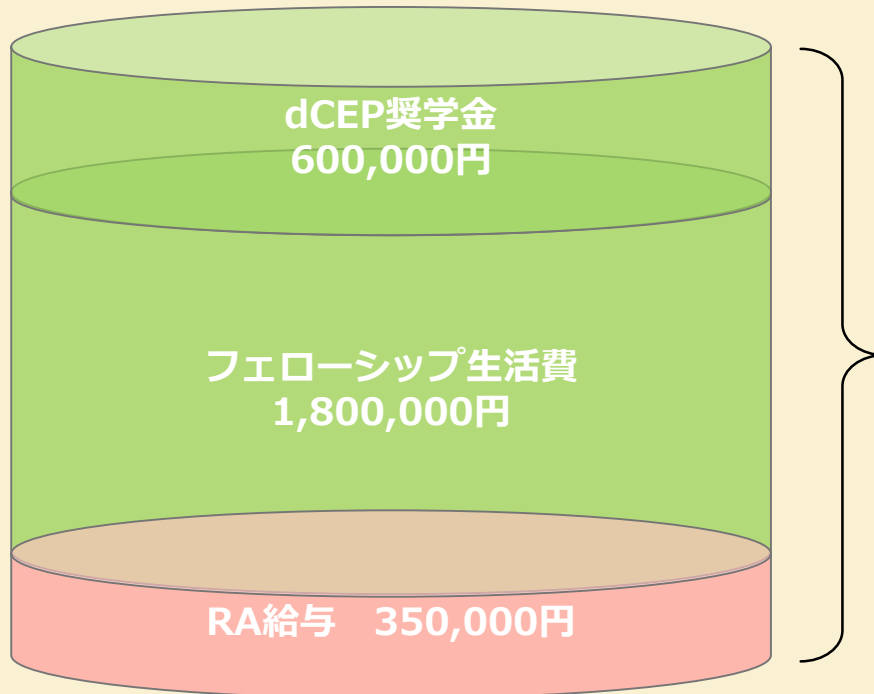


年間支援額計  
**2,150,000円**  
(+ 入学料282,000円免除)  
(+ 授業料535,800円免除)  
(+ 研究費60~70万円)

※RA給与は年間250時間の勤務を想定

本学博士前期課程修了後、**引き続き、一般入試により**博士後期へ進学した場合の支援のモデルケース

### モデルケース②-2 フェローシップ採用者かつdCEP生が年間で受けられる支援額



年間支援額計

**2,750,000円**

(+ 入学料282,000円免除)

(+ 授業料535,800円免除)

(+ 研究費60~70万円)

※RA給与は年間250時間  
の勤務を想定

本学博士前期課程修了後、**引き続き、一般入試により**博士後期へ進学した場合の支援のモデルケース

モデルケース③ DC1・DC2採用者が年間で受けられる支援額



年間支援額計

**2,400,000円**

(+ 入学料282,000円免除)

(+ 授業料535,800円免除)

(+ 研究費70～110万円)

※RA給与は年間250時間  
の勤務を想定